



井上 道義の 未来だった今より

自分を肯定できるということが、自分を幸福と思える唯一の条件だと私は思っています。ただし人にも神さまにもどう思われても良い！というくらい強い強い「自分の主観での肯定」でないという意味がないのですが。

でも、言うは易く行うは難し。他人に無視や反対されては、「私はこれで良い！」となかなか考えにくい。なにより肯定の前提の「自分の主観」を持つことが大変だ。僕は50年をそのために償やした気さえする。14歳であれ64歳であれ、生きている限り、欲望が生まれ、その裏返しとして、将来への不安、社会とのあつれき、家族や友人知人恋人との誤解や不信も生まれ、「安心する」ことは困難だ。安心、すなわち自分の心を安らかにとらえられるか？ 社会的に成功していても一皮むけば心が病気な人は多い。僕の父、正義はその最右翼だったかもしれません。

♪
幸福＝肯定？

彼は広島から米国へ移民した祖父の息子でした。頭の回転も羽振りもよかった父ですが、内面はアメリカでもなく日本でもなかった。故郷はどこにあると言えず、日本語も書けなかった。戦争がはじまり収容所に入れられかねない米国から来日、母と社内結婚。しかし日本では英語の短波放送を聞くだけでスパイ扱い。移住したフィリピンでは米軍に追われ母とジャングルに4カ月、死線をさまよった。戦後、命からがら帰国した日本で、じきに授かった赤ん坊が僕だ。僕にとっては、日本でも米国でも欧州でも豪州でも自分が生かせる場所こそが住む所。「日本人」として自分を定める根拠は「母国語が日本語」、今もそれだけ。あなたは「なぜ自分が日本人と言えるか？」という問いになんと答えますか？

(オーケストラ・アンサンブル
金沢音楽監督)